



6月園だより

2026年度
真愛幼稚園

6月の 聖書のことば

「見よ、それは極めて良かった。」 (創世記1章31節)

主 題

「さわってみよう」

- ・好きな遊びの発見 ・泥・水あそびを楽しむ
- ・楽器にふれる ・創られたものの不思議を感じる

さんびか

「うれしい あさよ」「ぱらぱらおちる」

う た

ばら：「にじ」

たんぼぼ：「だからあめふり」 もも：「かえるのうた」

6月の主な予定

1日 (月)	身体測定 (ばら)
2日 (火)	身体測定 (たんぼぼ) 内科検診
3日 (水)	身体測定 (もも・すみれ)
5日 (金)	園外保育 (地獄めぐり)
10日 (水)	体育教室 (ばら・たんぼぼ)
11日 (木)	眼科検診
12日 (金)	花の日礼拝
13日 (土)	ふれあい親子参観
15日 (月)	振替休園日
16日 (火)	耳鼻科検診
17日 (水)	英語であそぼう
22日 (月)	歯科検診10時～
26日 (金)	6月誕生会
29日 (月)	お茶教室 (ばら)

7月の主な予定

1日 (水)	身体測定 (ばら)
2日 (木)	身体測定 (たんぼぼ・もも・すみれ)
3日 (金)	園外保育 (田ノ浦ビーチ)
10日 (金)	7・8月誕生会
17日 (金)	1学期終了 (午前保育) 夕涼み会
21日 (火)	夏期保育・写真販売・面談
22日 (水)	夏期保育・写真販売・面談
23日 (木)	年長宿泊保育
24日 (金)	年長宿泊保育
8月10日	教会学校犬飼で流しそうめん
8月8日	～16日休園日
8月27日	～31日夏期保育

6月たんじょうのおともだち

1日 かわの うる さん4さい

19日 こうの なつせ くん5さい

6月の保育料について

- ・ 保育料 無償化の為保育料はありません。
- ・ バス代 4,000円（片道2,000円、兄弟姉妹半額）
- ・ 保護者会々費 600円
- ・ 給食費6月分（1回400円×17日+誕生会1回の計18回分）
市より調整されます。
- ・ 施設費（在園児5～3月毎月550円）、
（新入園児5～3月毎月1,600円）
- ・ 月刊おおぞら 480円（年長のみ）
- ・ 卒園アルバム積立 500円（年長のみ）
- ★ 6月の引き落としは6月5日（金）となります。

★預かり希望の方は事務所に用意している申込用紙に記入して連絡帳に挟んで担任に渡すか事務所に持ちください。緊急性のない場合の当日預かりはお引き受けできない場合があります。

★着脱可能な長袖の着替えを余分に持って来てください

☆6月も健康観察カードの記録をお願いします（全園児）

健康観察カードは継続して記入をお願いします。毎朝の検温の習慣をつけてください。
体操服の着用をお願いします。

☆誕生会について

- ① 園児の誕生月に行われる誕生会には保護者1名参加していただきます。
- ② 10時25分までに幼稚園玄関から入って、教会礼拝堂でお待ちください。
- ③ 10時30分より礼拝堂で礼拝と誕生会を行います。
- ④ 園舎に移動してゲストによるおたのしみタイムがあります。
- ⑤ お昼ご飯は「しんあい給食」を一緒に食べてお祝います。
- ⑥ 昼食後、保護者の方は退席し、園児は通常の降園時間に降園します。

※感染症拡大などの場合、各教室での誕生会となることもあります。その時は保護者と一緒に食事をするのがなくなる場合もあります。

※すみれ組は次年度も組になってからお祝いとなりますので保護者の参加はありません。

☆晴れの日には水遊び・シャボン玉遊びが始まります

よく晴れて暖かい日には泥んこ遊びやシャボン玉遊びが始まります。着替えはシンプルなもの・タオルを持たせてください。持ち物には名前を書いてください。水分補給の回数も増えてきます。中身はお茶か水でお願いします（甘味料・香料の入っているものはお控えください）。また大量の水は溶けにくく飲みにくいので適量でお願いします。

☆5日（金）園外保育（地獄めぐり）

今回は白池地獄とかまど地獄に出かけます。おにぎり弁当をお願いします。今後園外保育の時はおにぎり弁当となります。

7月3日（金）は田ノ浦ビーチに園外保育に出かけます。この時もおにぎり弁当になります。

おにぎり弁当の時にはピクニックシート・おしぼりを用意してください。

☆12日（金）花の日礼拝

花の日礼拝は、毎年6月の第2日曜日に行われるキリスト教の行事で、花や人が神さまから与えられ、守られ、愛されていることに感謝する日です。礼拝では、参加者が花を持ち寄って礼拝を行い、その後、花を持って病院や警察署、社会施設などを訪問し、慰問や感謝の気持ちを伝える活動が行われます。真愛幼稚園では今年もお世話になっている公会堂、消防本部、別府警察署に感謝の花束を届けに行きます。ご協力をお願いします。

花の日礼拝の起源は1856年のアメリカ・マサチューセッツ州にさかのぼります。普遍主義教会のチャールズ・H・レナード牧師が、6月のある日曜日に子どもたちを集め、献児式や幼児祝福式を行う特別礼拝を実施したことが始まりです。その後、アメリカのメソジスト教会などでも子ども中心の行事として定着し、花の多い季節であることから「花の日」と結びつきました。日本には明治中期に伝わり、幼稚園や学校、教会学校で花の日礼拝が行われています。礼拝後には、近隣の施設へ花を持って訪問し、感謝や思いやりの心を表す活動が行われます。また、幼児祝福式を組み合わせる園もあり、子どもたちが奉仕の心を学ぶ機会となっています。

花の日礼拝は、子どもや花を通して神の恵みを感じ、感謝と奉仕の心を育むことを目的としています。参加者は花を通じて美しさや喜びを共有し、社会への思いやりを実践することで、信仰と日常生活を結びつける行事となっています。



※花は12日に持たせてください。

当日スケジュール	10:40	中央消防署・写真撮影
10:00 合同礼拝	11:10	消防署出発・別府警察署へ
10:30 幼稚園出発（ばら・たんぽぽバス） もも・すみれ中央公会堂へ		

☆12日（金）プール設営

5月になって暑い日が続いていると、シャボン玉、水あそび、泥あそび、泥だんご作りがあちこちで行われています。プールを設営して年長組がプール清掃の奉仕をしてから天気の良い日にプールあそびが始まります。

水着、バスタオル、プールバッグ、水泳キャップには名前を書いて準備をしておいてください。また着替えにも名前を書いてください。ゴーグルや浮き輪は保育時間には使用しませんので持ってこないようにしてください。

水いぼになった場合はプールに入れますが、気になる方は防水のパッチか絆創膏を貼っておいてください。

※泥あそび、水あそびをした日には濡れた衣服を持ち帰ります。翌日乾かしたものを持たせてください。

※プールあそびは気温・水温・天候を見て判断します。

※プールバッグ（水着とバスタオル）は6月17日（水）以降幼稚園に置くことにしますので17日に持たせてください。

※保護者の方には①耳の中 ②爪切り ③前日・当日の健康状態 ④医師にかかっている場合はプールに入れるかの確認をしてください。

※下痢気味の場合、健康状態があまり良くない場合はお知らせください。

☆13日（土）ふれあい親子参観（全園児）

当日バスの送迎はありません。9時30分までに登園してください。子どもたちを園舎に送った後、9時40分頃からバザーはじまりの会が礼拝堂で行われます。遅れないように登園してください。すみれ組はこの日はお休みとなります。

10時～11時に伊東先生の指導で楽しみながら親子で体を動かします。

☆15日（月）振替休園日

☆各健診が6月にあります（全園児）

- ・6月 2日（火）13時～ 内科検診※検尿があります。6月1日・2日に回収
- ・6月11日（木）13時～ 眼科検診
- ・6月16日（火）13時～ 耳鼻科検診
- ・6月22日（月）10時～ 歯科検診

☆運動会の日程が変更になりました

当初予定していた運動会の日程は多くの小学校と重なってしまったため、10月10日（土）に変更します。予定に加えてください。10月13日（火）は振替休園日になります。

わらべうたは 子どもたちが親しむために生まれました

いつの時代も子どもたちは遊びの天才です。与えられている条件の中で、どうしたら楽しめるのかを提案し、楽しむながら改良して自分たちの遊びの中に取り込んでいきます。

わらべうたは平安時代や鎌倉時代に起源を持ち、子どもたちの遊びの中で自然に生まれ、世代を超えて伝承されてきた日本の伝統的な遊び歌です。わらべうたの起源は、平安時代や鎌倉時代にまで遡るとされ、当時は大人が教えるのではなく、子ども同士の遊びの中で自然に広まったと考えられています。江戸時代以前から農村や町人の生活の中で、子どもたちが遊びながら歌う形で、口伝えで受け継がれ、地域ごとに少しずつ歌詞や旋律が異なる多様性を持っていました。代表的な例として「かごめかごめ」「あんたがたどこさ」「ずいずいずっころばし」などがあります。

江戸時代には江戸市中での子どもの遊びが増え、わらべうたの種類も多様化しました。祭りや行事の中で見世物などで用いられたり、ぼてふり（売り人）の呼び声をまねしたり、読売（かわら版）や商売人の口上の真似から発展したものが歌われるものや、日常の遊びの中で使われるものなど、地域に根付いた文化として発展しました。この時期のわらべうたは、単なる歌ではなく、遊びの中でのリズムや動作と結びついた遊び歌として機能していました。

明治時代以降、教育制度の整備により、わらべうたの教育的価値が注目され、学校や保育園で歌われることが増えました。さらに、楽譜や書籍、テレビやCDなどのメディアを通じて広く知られるようになり、地域ごとの多様性はある程度標準化されました。明治後期には瀧廉太郎などによる日本独自の歌曲や、翻訳唱歌も登場し、わらべうたから発展した童謡文化が形成されました。

わらべうたは、子どもの創造性を育む遊びとして、幼児教育や音楽教育の現場で重要視されています。短いフレーズや覚えやすいリズム、生活や自然を題材にした歌詞は、子どもたちが日本語のリズムや文化を自然に学ぶ手段となります。現代では生活様式の変化により遊びの機会は減少しましたが、地域行事や保育園・幼稚園での活動を通じて、わらべうたは今なお伝承されています。真愛幼稚園も伝承あそびと同じくわらべうたを幼稚園生活の中に取り入れながら、言葉やリズム、自然を題材にした創造性を育む遊びとして取り入れようとしています。

（園長 庄司直充）



「あがりめ さがりめ」（ましませつこ・こぐま社）

昔から伝わる遊びながら歌えるわらべうた、古いイメージがあったり若い親は知らなかったり。この絵本は思わずやってみたくなる解り易くて面白そうなわらべうたを厳選して、とっても楽しいイメージの膨らむ絵で紹介しています。体全体を使って歌う遊び歌に子供達も大喜び。「げんこつやまのためきさん」「ずいずいずっころばし」など15曲。

「へっこ ぷっと たれた」（こがようこ・降矢なな 童心社）

並んでおいっちに おいっちに、しているのはきのこさん、あひるさん。それから、それからだるまさん。最後にきたのは…！？お母さんとあかちゃんの「いい関係」を沢山ご覧になられてきたからこそ、この作品。わらべうたのリズムがあかちゃんをトントンとあやす時の心地よいリズムと同じだと聞けば、なるほど納得。

